

DIALOG(R)File 351:Derwent WPI
(c) 2002 Thomson Derwent. All rts. reserv.

001161185

WPI Acc No: 1974-34994V/197419

Toner for developing electrostatic images - contg
polyethylene/poly-propylene, pigment and styrene resin opt with paraffin
wax and fatty acid metal salt for improved hot roll fixing

Patent Assignee: KONISHIROKU PHOTO IND CO LTD (KONS); KONICA CORP (KONS
)

Inventor: SATO M; TARUMI N; TOMONO M

Number of Countries: 004 Number of Patents: 014

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week	
DE 2352604	A	19740502				197419	B
JP 49065231	A	19740625				197505	
JP 49065232	A	19740625				197521	
GB 1442835	A	19760714				197629	
JP 77003304	B	19770127				197708	
JP 77003305	B	19770127				197708	
DE 2352604	B	19800911				198038	
US 4921771	A	19900501	US 88147024	A	19880119	199022	
US 4988598	A	19910129	US 90477193	A	19900206	199107	
US 4997739	A	19910305				199112	
US 5004666	A	19910402				199116	
US 5023158	A	19910611				199126	N
US 5629123	A	19970513	US 73408008	A	19731019	199725	
			US 76741408	A	19761112		
			US 7950475	A	19790620		
			US 81279673	A	19810701		
			US 83550992	A	19831114		
			US 85801376	A	19851122		
			US 8765093	A	19870618		
			US 88147024	A	19880119		
			US 90476142	A	19900226		
			US 91646709	A	19910125		
			US 92927548	A	19920806		
			US 94195905	A	19940214		
			US 94273638	A	19940712		
			US 95467055	A	19950606		
US 5629118	A	19970513	US 73408008	A	19731019	199725	
			US 76741408	A	19761112		
			US 7950475	A	19790620		
			US 81279673	A	19810701		
			US 83550992	A	19831114		
			US 85801376	A	19851122		
			US 8765093	A	19870618		
			US 88147024	A	19880119		
			US 90476142	A	19900226		
			US 91646709	A	19910125		
			US 92927548	A	19920806		
			US 94195905	A	19940214		
			US 94274109	A	19940712		
			US 95466247	A	19950606		

Priority Applications (No Type Date): JP 72105289 A 19721023; JP 72104865 A
19721021

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC
US 5629123 A 9 G03G-009/08

Filing Notes

CIP of application US 73408008
Cont of application US 76741408
Cont of application US 7950475
Cont of application US 81279673
Cont of application US 83550992
Cont of application US 85801376
Cont of application US 8765093
Cont of application US 88147024
Cont of application US 90476142
Cont of application US 91646709
Cont of application US 92927548
Cont of application US 94195905
Cont of application US 94273638
Cont of patent US 4921771
Cont of patent US 4997739

US 5629118 A 9 G03G-013/20

CIP of application US 73408008
Cont of application US 76741408
Cont of application US 7950475
Cont of application US 81279673
Cont of application US 83550992
Cont of application US 85801376
Cont of application US 8765093
Cont of application US 88147024
Cont of application US 90476142
Cont of application US 91646709
Cont of application US 92927548
Cont of application US 94195905
Div ex application US 94274109
Cont of patent US 4921771
Cont of patent US 4997739

Abstract (Basic): DE 2352604 A

The toner consists of or contains (a) a colouring agent, (b) a styrene resin and (c) polyethylene and/or polypropylene opt. (d) a paraffin wax and opt. (e) a fatty acid metal salt. Excellent hot roll fixing of the image is possible, without the occurrence of the 'offset' phenomenon if the fixing roll is used without addn. of offset-preventing liq. The toner is very useful in very high speed copiers. The amts. of additives are 0.1-5 (0.5-15) (wt.) pts. (c) + (d)/100 pts. (b), 25-400 pts. (d)/100 pts. (c) and 0.1-10 pts. (e)/100 pts. (b).

Abstract (Equivalent): US 5629123 A

A toner for developing electrostatic images including a binder resin comprising a homopolymer of styrene or a copolymer of styrene and at least one vinyl comonomer, and low number average molecular weight polypropylene, in an amount of about 1 to 10 parts by weight per 100 parts by weight of said styrene homopolymer or copolymer.

Dwg. 0/0

US 5629118 A

A method of electrophotography comprising developing an electrostatic latent image with a toner composition to form a toner image, transferring the toner image to a paper, then fixing the toner image by passing the paper between rollers, at least one of which is heated to a temperature of about 155 deg. C. to about 210 deg. C. , the toner composition including a binder resin comprising a homopolymer of styrene or a copolymer of styrene with at least one vinyl comonomer,

THIS PAGE BLANK (USPTO)

⑤ Int. Cl.²
G 03 G 9/08

⑥ 日本分類
103 K 112

⑦ 日本国特許庁

⑧ 特許出願公告

昭52-3305

特 許 公 報

⑨ 公告 昭和 52 年(1977) 1 月 27 日

庁内整理番号 6715-27

発明の数 2

(全 7 頁)

1

④ 静電荷像現像用トナー

① 特 願 昭 4 7-1 0 5 2 8 9

② 出 願 昭 4 7 (1 9 7 2) 1 0 月 2 3 日

公 開 昭 4 9-6 5 2 3 2

③ 昭 4 9 (1 9 7 4) 6 月 2 5 日

⑦ 発 明 者 友野信

日野市東豊田 1 の 4 6 の 1

同 梅見紀慶

多摩市諏訪 2 の 4 の 4 の 4 0 4

同 佐藤政幸

大月市富浜町鳥沢 3 4 0 4

⑧ 出 願 人 小西六写真工業株式会社

東京都中央区日本橋室町 3 の 1 の
1 0

⑨ 代 理 人 鈴木清司

⑤ 特許請求の範囲

1 (イ)着色剤、(ロ)スチレン系樹脂、(ハ)低分子量ポリエチレンおよび低分子量ポリプロピレンから選ばれる少なくとも 1 種のポリアルキレン化合物および(ニ)パラフィンワックスを含有することを特徴とする静電荷像現像用トナー。

2 (イ)着色剤、(ロ)スチレン系樹脂、(ハ)低分子量ポリエチレンおよび低分子量ポリプロピレンから選ばれる少なくとも 1 種のポリアルキレン化合物、(ニ)パラフィンワックスおよび(ホ)脂肪酸金属塩を含有することを特徴とする静電荷像現像用トナー。

発明の詳細な説明

本発明は電子写真、静電記録、静電印刷などに
おける静電荷像を現像するためのトナーに関する。

静電荷像を現像する方式には、大別して絶縁性有機液体中に各種の顔料や染料を微細に分散させた現像剤を用いる液体現像方式とカスケード法、毛ブラシ法、磁気ブラシ法、インプレッション法、パウダークラウド法などの天然または合成の樹脂にカーボンブラックなどの着色剤を分散含有せし

2

めたトナーと呼ばれる微粉末現像剤を用いる所謂乾式現像方式とがあり、本発明は後者の乾式現像方式において使用するトナーに関するものである。

トナーを用いて静電荷像を現像した後、定着が行なわれるが、一般に定着は静電荷像を保有せしめた光導電性感光体もしくは静電記録体上に現像によつて得られたトナー像を直接融着させるか、あるいは現像によつて得られたトナー像を光導電性感光体もしくは静電記録体上から担紙などの転写シート上に転写した後、これを転写シート上に融着させることによつて行なわれる。その際、トナー像の融着は溶媒蒸気との接触または加熱のいずれかによつて行なわれ、加熱方式としては電気炉による無接触加熱方式および加熱ローラーによる圧着方式が一般に採用されている。

加熱ローラーによる圧着加熱方式はトナーに対して離型性を有する材料で表面を形成した加熱ローラーの表面に被定着シートのトナー像面を圧接触させながら通過せしめることにより定着を行なうものであり、一般に加熱ローラー定着法と呼ばれているが、この方法は加熱ローラーの表面と被定着シートのトナー像面とが圧接触するため、トナー像を被定着シート上に融着する際の熱効率が極めて良好であり、迅速に定着を行なうことができるので特に高速度複写を目的とする転写方式の電子写真複写機には極めて有効である。しかしながら、この方法においては定着ローラー表面とトナー像とが加熱熔融状態で圧接触するためトナー像の一部が定着ローラー表面に付着して移転し、次の被定着シート上にこれを再移転して所謂オフセット被定着シート上にこれを再移転して所謂オフセット現像を生じ被定着シートによつてこれを発生せしめることがある。そのため、ローラー表面に対してトナーが付着しないようにすることが加熱ローラー定着法における必須要件の一つとされている。

従来、定着ローラー表面にトナーを付着させな

3

いたためにたとえば、ローラー表面を弗素系樹脂などのトナーに対して離型性の優れた材料で形成するとともにその表面にさらにシリコンオイルなどのオフセット防止用液体を供給して液体の薄膜でローラー表面を被覆することが行なわれている。この方法はトナーのオフセットを防止する点では極めて有効なものではあるがオフセット防止用液体が加熱されることにより臭気を発生し、またオフセット防止用液体を供給するための装置を必要とするため、複写装置の機構が複雑になるとともに安定性のよい結果を得るために高い精度が要求されるので複写装置が高価なものになるという欠点がある。しかしながらオフセット防止用液体を供給しない場合には定着ローラー表面にトナーが付着してオフセット現象が発生するのでこれらの欠点を有するにも拘わらずオフセット防止用液体の供給を行なわざるを得ないのが現状である。

本発明の目的は、その表面にオフセット防止用液体を供給しない定着ローラーを使用した場合にも、トナーのオフセット現象を発生させずに効率よく良好な加熱ローラー定着を行なうことができる静電荷像現像用トナーを提供するにある。本発明者は(イ)着色剤、(ロ)スチレン系樹脂、(ハ)低分子量ポリエチレンおよび低分子量ポリプロピレンから選ばれる少なくとも1種のポリアルキレン化合物および(ニ)パラフィンワックスを含有する静電荷像現像用トナーが前記の目的を達成するものであることを見出した。さらにまた、前記(イ)、(ロ)、(ハ)、および(ニ)に加えて(ホ)脂肪酸金属塩を含有する静電荷像現像用トナーが同様に前記の目的を達成するものであることを見出した。

本発明に係る静電荷像現像用トナーを使用することにより、定着ローラー表面にオフセット防止用液体を供給しない場合にもオフセット現象を発生することなく効率よく良好な加熱ローラー定着を行なうことができるので、定着装置の機構を簡素化できると共に、たとえばこのような定着装置を組み込んだ高速複写機の精度、安定度および信頼度を向上することができ、しかも価格の面でも低減化することができる。したがって超高速複写機の設計を極めて容易ならしめるといふ利点を有する。

本発明に係るトナーにおいて任意の適当な顔料または染料が着色剤として使用される。たとえば

4

カーボンブラック、ニグロシン染料、アニリンブルー、カルコオイルブルー、クロームイエロー、ウルトラマリンブルー、デユボンオイルレッド、キノリンイエロー、メチレンブルークロライド、フタロシアニンブルー、マラカイトグリーンオキサレート、ランプブラック、ローズベンガルおよびそれらの混合物が使用され、これらは現像により可視像を形成することができるようにトナーを着色するのに十分な量でトナー中に含有させることが必要である。

本発明に係るトナーにおいてスチレン系樹脂が樹脂成分として使用される。スチレン系樹脂はスチレンのホモポリマーでもよいし、また他のビニル系単量体とスチレンとのコポリマーでもよい。これらのコポリマーを形成するための単量体には、p-クロルスチレン、ビニルナフタリン、たとえばエチレン、プロピレン、ブチレンイソブチレンなどのエチレン不飽和モノオレフィン類、たとえば塩化ビニル、臭化ビニル、弗化ビニル、酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル、ベンゾエ酸ビニル、酪酸ビニルなどのビニルエステル類、たとえばアクリル酸メチル、アクリル酸エチル、アクリル酸n-ブチル、アクリル酸イソブチル、アクリル酸ドデシル、アクリル酸n-オクチル、アクリル酸2-クロロエチル、アクリル酸フェニル、α-クロルアクリル酸メチル、メタアクリル酸メチル、メタアクリル酸エチル、メタアクリル酸ブチルなどのα-メチレン脂肪族モノカルボン酸のエステル類、アクリロニトリル、メタアクリロニトリル、アクリルアミド、たとえばビニルメチルエーテル、ビニルイソブチルエーテル、ビニルエチルエーテルなどのビニルエーテル類、たとえばビニルメチルケトン、ビニルヘキシルケトン、メチルイソプロペニルケトンなどのビニルケトン類、たとえばN-ビニルピロール、N-ビニルカルバゾール、N-ビニルインドール、N-ビニルピロリデンなどのN-ビニル化合物などがあり、これらの1種または2種以上をスチレン単量体と共重合させることができる。適当なスチレン系樹脂は約3000以上の重量平均分子量を有しており、そのスチレン成分含有量はスチレン系樹脂の全重量を基礎にして重量で少なくとも約25%であることが好ましい。

スチレン系樹脂に他の樹脂を混合した熱可塑性

樹脂系も本発明に係るトナーの樹脂成分として使用することができる。スチレン系樹脂と混合することのできる他の樹脂には、ビニルナフタリン、たとえば塩化ビニル、臭化ビニル、弗化ビニル、酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル、ベンゾエ酸ビニル、酪酸ビニルなどのビニルエステル類、たとえばアクリル酸メチル、アクリル酸エチル、アクリル酸 n -ブチル、アクリル酸イソブチル、アクリル酸ドデシル、アクリル酸 n -オクチル、アクリル酸2-クロロエチル、アクリル酸フェニル、 α -クロロアクリル酸メチル、メタアクリル酸メチル、メタアクリル酸エチル、メタアクリル酸ブチルなどの α -メチレン脂肪族モノカルボン酸のエステル類、アクリロニトリル、メタアクリロニトリル、アクリルアミド、たとえばビニルメチルエーテル、ビニルイソブチルエーテル、ビニルエチルエーテルなどのビニルエーテル類、たとえばビニルメチルケトン、ビニルヘキシルケトン、メチルイソプロペニルケトンなどのビニルケトン類、たとえば N -ビニルピロール、 N -ビニルカルバゾール、 N -ビニルインドール、 N -ビニルピロリデンなどの N -ビニル化合物などの単量体を重合させたホモポリマーまたはこれらの単量体を2種以上組み合わせて共重合させたコポリマーあるいはたとえばロジン変性フェノールホルマリン樹脂、油変性エポキシ樹脂、ポリウレタン樹脂、セルローズ樹脂、ポリエーテル樹脂などの非ビニル系熱可塑性樹脂がある。これらの樹脂をスチレン系樹脂と混合して使用する場合には、混合して得られる樹脂の全重量を基礎にして重量で少なくとも約25%のスチレン成分が存在する量になるように両者を混合するのが好ましい。その訳は定着ローラーに対するトナーの離型性がスチレン成分の存在量と密接な関係があり、スチレン成分を減少させるにしたがい、定着ローラーに対するトナーの離型性を低下せしめる傾向があるからである。

本発明に係るトナーにおいて、低分子量ポリエチレンおよび低分子量ポリプロピレンから選ばれる少なくとも1種のポリアルキレン化合物およびパラフィンワックスが離型効果に寄与するトナー添加剤として組み合わせて使用される。

ポリエチレンおよびポリプロピレンならびにパラフィンワックスは、それぞれ単独でトナー中に含有させた場合いずれもトナーの定着ローラーに

対する離型性の向上に極めて効力を発揮するが、ポリエチレンおよびポリプロピレンはスチレン系樹脂に対する相溶性が小さいため、これを単独でトナー中に含有させると樹脂成分と充分相溶せず得られるトナーは凝集化を生じがちである。しかし凝集化を生ぜしめないためにこれらの含有量を小にするとトナーの定着ローラーに対する離型性は低下する。またパラフィンワックスは比較的低融点を有するため、これを単独でトナー中に含有させるとトナーの粒子表面に遊離を生じ得られるトナーは同様に凝集化を生じ易い。しかもトナー自身の融点が低くなるため加熱融着時のトナーの流動性が大きくなり、離型作用を生ずる温度範囲が比較的低い方に偏り、その幅が狭くなるという欠点を有する。しかしながら、ポリエチレンおよびポリプロピレンから選ばれる少なくとも1種のポリアルキレン化合物とパラフィンワックスとを組み合わせてトナーに含有させることにより、前記のそれぞれ単独に含有させた場合の欠点を解消することができる。すなわち、両者を組み合わせてトナーに含有させたときには、ポリアルキレン化合物の樹脂成分に対する相溶性が向上するとともにパラフィンワックスの遊離が抑制され、得られるトナーの凝集化が生じない。さらにポリアルキレン化合物とパラフィンワックスとの組み合わせ量比を適宜変化することにより、得られるトナーの離型作用を生ずる温度範囲を拡大せしめ所望の値とすることができるという利点を有する。しかも両者を組み合わせて含有させることによりトナーの定着ローラーに対する離型作用はさらに向上する。

本発明に係るトナーにおいて使用されるポリアルキレン化合物は、スチレン系樹脂成分に対する相溶性ができるだけ大きいものであることが望ましいだけでなく、融着温度を所望の値とするためあまり高融点のものは好ましくないことか比較的低分子量のものが望ましく、概して重量平均分子量が約1000以下のもの、そのうちでもたとえばポリエチレンについては重量平均分子量が約1500乃至3000程度のもの、またポリプロピレンについては重量平均分子量が約2000乃至6000程度のものが特に有効に使用される。また本発明に係るトナーにおいてポリアルキレン化合物と組み合わせて使用されるパラフィスワックスは、炭素数約16乃至40を有する天然または

合成のパラフィン炭化水素類あるいはこれらの混合物で、約37乃至65℃の融点を有する常温で白色半透明ろう状の固体である。

ポリアルキレン化合物とパラフィンワックスとを組み合わせてトナー中に含有させる場合両者のトナーに対する組み合わせ総添加量および両者の組み合わせ量比は、それぞれトナーの樹脂成分、着色剤およびトナー添加剤の種類ならびにそれらの使用量によつて異なるが、一般にポリアルキレン化合物とパラフィンワックスとの組み合わせ総量がトナーの樹脂成分100重量部当り0.1乃至50重量部、好ましくは0.5乃至15重量部であり、その際ポリアルキレン化合物とパラフィンワックスとの組み合わせ量比はポリアルキレン化合物100重量部当りパラフィンワックスが約2.5乃至4.0重量部であることが好ましい。その訳はパラフィンワックスの組み合わせ量が小に過ぎるときにはポリアルキレン化合物を単独でトナー中に含有せしめた場合と同様の欠点を生じがちであり、またパラフィンワックスの組み合わせ量が大き過ぎるときにはパラフィンワックスを単独でトナー中に含有せしめた場合と同様の欠点を生じがちであるからである。ポリアルキレン化合物とパラフィンワックスとを組み合わせてトナー中に含有させるには、これらを混練工程に先立つ樹脂成分、着色剤および各種トナー添加剤の予備混合時に添加すればよいが、その際予めポリアルキレン化合物とパラフィンワックスとを混溶して固溶体化しておくことにより、ポリアルキレンの樹脂成分に対する相溶性をより向上せしめることができる。

本発明に係るトナーにおいて、前記の如きポリエチレンおよびポリプロピレンから選ばれる少なくとも1種のポリアルキレン化合物およびパラフィンワックスの組み合わせに加えてさらに脂肪酸金属塩が組み合わせて使用される。

脂肪酸金属塩の添加は本発明のトナーにとつて極めて好ましい作用を与える。すなわち、脂肪酸金属塩を添加することによりポリアルキレン化合物の樹脂成分に対する相溶性はさらに向上し、かつパラフィンワックス、着色剤、荷電制御剤などその他のトナー添加剤の分散性も同様にさらに向上する。このため得られるトナーの離型性をさらに向上することができるとともに、トナーの安定性を著しく増大し、長期間の使用に際しても摩擦

帯電特性を変化せしめず、トナーの寿命を著しく増大することができる。さらにまたトナーの耐湿性も向上することができる。

本発明において使用される代表的な脂肪酸金属塩にはステアリン酸のカドミウム塩、バリウム塩、鉛塩、鉄塩、ニッケル塩、コバルト塩、銅塩、ストロンチウム塩、カルシウム塩またはマグネシウム塩、オレフィン酸の亜鉛塩、マンガン塩、鉄塩、コバルト塩、銅塩、鉛塩またはマグネシウム塩、パルミチン酸の亜鉛塩、コバルト塩、銅塩、マグネシウム塩、アルミニウム塩またはカルシウム塩、リノール酸の亜鉛塩、コバルト塩またはカルシウム塩、リシノール酸の亜鉛塩またはカドミウム塩、カプリル酸の鉛塩、カブロン酸の鉛塩およびそれらの混合物があり、これらの脂肪酸金属塩をポリアルキレン化合物とパラフィンワックスとを組み合わせて含有せしめたトナーの樹脂成分100重量部に対し0.1乃至10重量部程度、好ましくは0.5乃至5重量部トナー中に添加含有せしめることにより前記の如き良好な結果を得ることができる。なお、本発明に係るトナーには必要に応じてその他の種々のトナー添加剤を添加することができる。

本発明に係るトナーを使用して被定着シート上に形成したトナー像は、その表面にオフセット防止用液体を供給しない定着ローラーを使用した場合にもトナーのオフセット現象を発生することなく効率よく良好な加熱ローラー定着を行なうことができる。定着ローラーとしては、その表面をたとえばテフロン(デュポン社製)、フルオン(ICI社製)、ケル-F(3M社製)などの弗素系樹脂あるいはKE-1300RTV(信越化学社製)などの比較的硬質のシリコンゴムで形成した平滑面を有するものが有効に使用される。

次に実施例によつて本発明を例証するが、本発明の実施の態様がこれによつて限定されるものではない。なお実施例において部数は特にことわらない限り重量によつて表わす。

実施例 1

ビコラスチックD-150(エツソ石油化学社製、スチレン系樹脂)100部と、ビアレックス155(コロムビアカーボン社製)5部と、ニグロシンベースEX(オリエント化学社製)5部と、ビスコール550-P(三洋化成社製、低分子量

ポリプロピレン) 2部と、パラフィンワックス 135° (日本石油社製) 5部とを混合して約 24時間ボールミルにかけた後、熱ロールを用いて混練し、冷却後粉碎して約13乃至15ミクロンの平均粒度を有するトナーを作成し試料とした。5 別に、ポリプロピレンとパラフィンワックスを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これらのトナー4部をそれぞれ約50乃至80ミクロンの平均粒度を有する鉄粉キャリアー96部と混合して2種の現像剤を作り、これらの現像剤を用いて通常の電子写真法によつて形成した静電荷像を現像した後、トナー像を転写紙上に転写し、表面をFEP(デュボン社製、テトラフルオロエチレンとヘキサフルオロプロピレンとの共重15 合体)で形成した定着ローラーを用いて185乃至195℃で圧接触させてトナー像を融着せしめ定着した。次いで融着したトナー像が定着ローラーの表面に転移してオフセット現象が生ずるかどうかが調べるため、それぞれの定着操作を行なつた20 後トナー像を有しない転写紙を前記と同様の条件で定着ローラーに圧接触させ、転写紙上にトナーのオフセットにより発生するよごれを観察した。

その結果、比較試料のトナーを用いた場合には転写紙上にトナーオフセットによる著しいよごれ25 が認められたが、試料のトナーを用いた場合には転写紙上によごれが全く発生せず、トナーのオフセット現象の生じないことが認められた。この結果はさらにこの定着操作を繰返し行なつた場合にも全く同様であつた。

実施例 2

ビスコール550-Pに代えてACポリエチレン6A(アライドケミカル社製、低分子量ポリエチレン)を用いた他は実施例1と同様の操作によつてトナーを作成し試料とした。別に、ポリエチ35 レンとパラフィンワックスを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これらの2種のトナーを用い、定着ローラーとして表面をKE-12RTV(信越化学社製、シリコンゴム)で形成したものを用いた他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象

が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 3

ビコラスチックD-150 50部と、ビコラスチックD-125(エツソ石油化学社製、スチレン系樹脂)50部と、ダイアブラックSH(三菱化成社製)5部と、オイルブラックBS(オリエント化学社製)5部と、ビスコール660-P(三洋化成社製、低分子量ポリプロピレン)3部と、ACポリエチレン6A2部と、パラフィンワックス140°(日本石油社製)5部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別にポリプロピレンとポリエチレンとパラフィンワックスを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これらの2種のトナーを用い、融着温度を170乃至180℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 4

ビコラスチックE-125(エツソ石油化学社製、スチレン系樹脂)80部と、エスレックBL-S(積水化学社製、ポリビニルブチラール樹脂)20部と、ビアレス155 10部と、オイルブラックBW(オリエント化学社製)3部と、ビスコール660-P10部と、パラフィンワックス135°3部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、ポリプロ30 ビレンとパラフィンワックスを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これらの2種のトナーを用い、定着ローラーとして表面をテフロン(デュボン社製、ポリテトラフルオロエチレン)で形成したものを用い、かつ融着温度を160乃至170℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用

11

いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 5

約 70 部のスチレンおよび約 30 部のメタアクリル酸ブチルの共重体 100 部と、ビスコール 550-P1 部とパラフィンワックス 135° 4 部とを混合して実施例 1 と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、ポリプロピレンとパラフィンワックスを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これらの 2 種のトナーを用い、定着ローラーとして表面を KE-1300 RTV (信越化学社製、シリコンゴム) で形成したものを用い、かつ融着温度を 175 乃至 185℃ とした他は実施例 1 と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 6

ビコラスチック E-125 40 部と、ビコラスチック D-150 30 部と、エスレック BL-1 (横水化学社製、ポリビニルブチラル樹脂) 10 部と、ダイアナル BR-102 (三菱レイヨン社製ポリメタアクリル酸ブチル樹脂) 20 部と、ダイアブラック AH 5 部と、ニグロシンベース EX 5 部と、ビスコール 550-P1 0 部と、パラフィンワックス 135° 3 部とを混合して実施例 1 と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、ポリプロピレンとパラフィンワックスを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これらの 2 種のトナーを用い、融着温度を 170 乃至 180℃ とした他は実施例 1 と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 7

約 80 部のスチレンおよび約 20 部のメタアクリル酸エチルの共重合体 80 部と、ビニライト

12

VYLF (ベイクライト社製、約 87 部の塩化ビニルと約 13 部の酢酸ビニルとの共重合体) 20 部と、ダイアブラック SH 8 部と、ニグロシンベース EX 5 部と、ビスコール 660-P3 部と、ヘキストワックス PA190 (ヘキスト社製、低分子量ポリエチレン) 2 部と、パラフィンワックス 140° 5 部とを混合して実施例 1 と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、ポリプロピレンとポリエチレンとパラフィンワックスを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これらの 2 種のトナーを用い、融着温度を 175 乃至 185℃ とした他は実施例 1 と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 8

ビコラスチック D-150 100 部と、ダイアブラック SH 5 部と、オイルブラック BS 5 部と、ビスコール 550-P2 部と、パラフィンワックス 135° 5 部と、ステアリン酸亜鉛 3 部とを混合して実施例 1 と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、ステアリン酸亜鉛を加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料 A とした。さらにステアリン酸亜鉛とポリプロピレンとパラフィンワックスを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料 B とした。

これらの 3 種のトナーを用いて実施例 1 と同様の操作を施し、それぞれトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料 B のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、比較試料 A および試料のトナーを用いた場合にはいずれもトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。さらに繰返し使用の結果、比較試料 A のトナーに比べて試料のトナーが長期間摩擦帯電性が変化せず長寿命を有することが認められた。

実施例 9

ビコラスチック D-150 40 部と、ビコラスチック D-125 40 部と、エスレック BM

13

—2 (積水化学社製、ポリビニルブチラール樹脂 20部と、ピアレス155 8部と、ニグロシンベースEX 5部と、ビスコール660-P 5部と、パラフィンワックス140° 5部と、パルミチン酸カルシウム1部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、パルミチン酸カルシウムを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し、比較試料Aとした。さらにパルミチン酸カルシウムとポリプロピレンとパラフィンワックスを加えない他は前記

これらの3種のトナーを用い、定着ローラーとして表面をKE-12RTVで形成したものを用い、かつ融着温度を160乃至170℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料Bのトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、比較試料Aおよび試料のトナーを用いた場合にはい

実施例 10

約65部のスチレンおよび約35部のメタクリル酸ブチルの共重合体100部と、ダイアブラックSH8部と、オイルブラックBW3部と、ヘ

14

キストワックスPA190 5部と、パラフィンワックス140° 5部と、ステアリン酸鉛0.5部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、ステアリン酸鉛を加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Aとした。さらにステアリン酸鉛とポリエチレンとパラフィンワックスを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Bとした。

これらの3種のトナーを用い、定着ローラーとして表面をテフロンで形成したものを用い、かつ融着温度を180乃至190℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料Bのトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが比較試料Aおよび試料のトナーを用いた場合にはいづれもトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。さらに繰返し使用の結果、比較試料Aのトナーに比べて試料のトナーが長期間摩擦帯電性が変化せず長寿命を有することが認められた。

引用文献

- 25 電子写真技術 井上英一 昭34.8.5 第26頁 共立出版発行
便覧ゴムプラスチック配合薬品 ラバーダイジエ
スト編 昭41.6.15 第247~253頁
ラバーダイジエスト社発行

THIS PAGE BLANK (USPTO)